

続・ふるさと

こぼれ話

第78回

青木の親腸先生⑩

酒井良清物語 移動公民館⑧

船生亘弘さんの話

「不便だった加賀地に月1回、移動公民館として、定期的に医者と保健婦がきて血圧測定や健康相談をしてくれるので、加賀地中、大喜びでした。たいの用事は移動公民館で間に合いました。なかなか医者にかかれないう集落だったからか年1回、11月下旬に酒井先生が親しくしている宇都宮の数人の医師が来て、1日病院を開業してくれました。今の集団検診の先駆けです。かね。町で集団検診を始めるようになってからも、加賀地の人の受診率は高かったと聞いています。加賀地は田の耕作面積も狭く、葉タバコの単作でした。学校を出て農業で食べて

いこうと養豚もやりましたが、生産性が高く所得が得られる良い換金作物はないかと、移動公民館で来る普及員の吉田さん、石川さんには何回も相談しました。芳志戸や稲毛田で栽培されている幸水・豊水・新水の三水品種を勧められ、集落の仲間3人で梨栽培に取り組みました。始める時に、梨が勝つか、葉タバコが残るか、父と大議論をしました。苦労もありましたが自分の畑6反歩から始め、最大3町5反の梨畑を経営する専業農家になりました。後継者も農業を継いでくれ、今は息子の手伝いです。」

「移動公民館のおかげで、



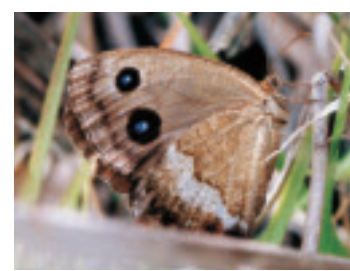
▲移動公民館に集まる子どもたち

読書と健康がわたしの二大関心事になりました。今でも読んでいる本は、健康や家庭生活ものが中心です。移動公民館の知久五郎さんが英会話が得意とすることで講師に招き、昭和35、36年ごろ、上稲毛田小学校を会場に、上稲毛田婦人学級の英会話講座を行いました。15、16人の女性が、当時では珍しい英会話の勉強をしました。」

(つづく)

しまたがしの 芳賀の自然

30



ジャノメチョウ

チョウ目タテハチョウ科ジャノメチョウ亜科  
写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所:芳賀町地内  
分布=北海道~九州  
生息地=低山地から平地の明るい草原。草の上すれすれをジグザクに飛び回る。  
発生=7~8月(1回/年)  
食性=イネ科・カヤツリグサ科など  
大きさ=開張(羽を広げた最大値)50~70mm  
特徴=表裏とも地色は褐色。前羽に2つ、後羽に1つの眼球紋をもつことから蛇の目と呼ばれる。(写真は雌。羽表は淡い褐色で雄よりも紋が大きい)

編集後記

□今年に残暑が厳しいですね。普段、自宅で冷房は使わないのですが、8月後半の暑さには冷房なしでは勝てませんでした。熱帯夜が少なかったのが救いかな。□まだこれからも残暑は続きそうです。外での取材は辛いですが「暑い中、苦勞さま」など声をかけてもらうと報われた気分になります。□暑さとの戦いも今月で終わります。

(K)



▲道の駅はが周辺

- 編集 芳賀町広報広聴委員会  
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課  
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス  
http://www.town.haga.tochigi.jp

☎芳賀町の携帯サイトはコチラから➔

